

実践報告

看図アプローチを活用した定時制高校 「英語コミュニケーションⅠ」の追実践 —2022 年 3 月の実践との比較—

江草千春¹⁾

EGUSA Chiharu

キーワード：看図アプローチ・定時制高校・英語教育・ビジュアルテキスト

概 要

本稿は、江草（2022）と同じビジュアルテキストとワークシートを用いた看図アプローチの追実践である。1 学年の学習者 9 名を対象に、5 時限配当で授業実践を行った。ワークシートの感想からは、江草（2022）と同様に、「楽しく学ぶことができた」、「友達と考えを共有することで考えが深まりとても良かった」など、肯定的な記述が多かった。これは、他の実践研究（e.g., 茅野・時田, 2021）と同様に、看図アプローチの有効性や汎用性の高さを追認するものであった。また、本実践と江草（2022）で行われた授業実践について看図アプローチの 3 つの活動（変換・要素関連づけ・外挿）と感想に分けて考察した。その結果、それぞれの授業実践において、授業を行う時間数、活動に取り組む時間、あるいは、学年の集団や特性などが異なっても、ある種の「わかりにくさ」が備わっているビジュアルテキストと、3 つの活動における適切な「発問」の 2 つの条件があることで次のことが明らかとなった。それは、先述した 2 つの条件が融合することで、協同の学び合いを充実させたり、多様な解答を産出させたりして学習を深化させていくことである。そしてそれが、看図アプローチの有効性や汎用性の高さにつながっていくことである。

1. はじめに

本実践は、江草（2022, 2023, 2024）で行った看図アプローチを活用した授業実践研究の第 4 弾である。看図アプローチは、協同学習の 1 つの手法であり、絵図・写真・グラフなどのビジュアルテキストを読み解き、読み解いた内容を発信していくプロセスを含んだ授業づくりの方法である（鹿内, 2016; 鹿内・佐田・中尾・石山, 2016）。

看図アプローチを行うときには、ビジュアルテキストを用いるが、このテキストには、斬新性・

あいまい性・暗示的有意味性・創発性・不調和性・拡散性（Finke, Ward & Smith, 1996, pp.23-24）という 6 つの特性を含む、ある種の「わかりにくさ」が備わっている必要がある。この「わかりにくさ」が、学習者たちが個々に思考したり、ペアやグループで協同の学び合いを深めながら、ビジュアルテキストを様々な解釈したり、表現したりすることを可能にしている（鹿内, 2015, 2022）。また、このビジュアルテキストを読み解いていくための認知活動として、次の 3 つがある

1) 北海道岩見沢東高等学校

（鹿内，2015）。1つ目が「変換」であり，ビジュアルテキスト中に描かれている（あるいは写っている）諸要素を言語化する活動である。2つ目が「要素関連づけ」であり，ビジュアルテキストを構成している諸要素を相互に関連づける活動である。3つ目が「外挿」であり，ビジュアルテキスト中に表現されている内容を超えて，展開について推量したり結果を予測したりすることにより，発展的に考えていく活動である。

先述した3つの活動を用いて，江草（2022，2023）では，定時制高校の学習者を対象に，絵図のビジュアルテキストを用いて授業実践を行った。一方，江草（2024）では，看図アプローチ協同学習を促進するビジュアルテキストである「きゅうちゃん」（石田，2022，2023，2025；鮫島・石田，2023；鹿内，2023；山下，2023）を用いて授業実践を行った。いずれの実践においても，学習者のワークシートによる記述内容から，看図アプローチの有効性や汎用性の高さが確認される結果となった。また，江草（2024）では，小学校において国語の授業実践を行った田中（2022）と同じワークシートを用いて追実践を行い，看図アプローチの有効性や汎用性の高さを追認した。

このように，近年では，看図アプローチを実践するだけではなく，学習者などの変数を変えて追実践が行われている。授業実践研究では研究倫理の観点から統制群法を用いることができない。そ

のため，様々な状況下で追実践を繰り返す必要があると，鹿内（2024）や鹿内・石田（2025）は指摘している。そこで，本実践では，江草（2022）と同じビジュアルテキストとワークシートを用いて授業追実践を行う。そして，その実践結果を江草（2022）と詳細に比較しながら考察を行う。

Ⅱ．「英語コミュニケーションⅠ」における授業実践

本実践は，2023年10月にA高等学校（高校）定時制課程の「英語コミュニケーションⅠ」で行われた。この科目は，1学年で3単位（1週間に3回授業がある），2学年で2単位が配置されている。江草（2022）と同じビジュアルテキストである「室内光景」（図1参照）を用いて，5時間配当の授業を行った（資料1～5参照）。

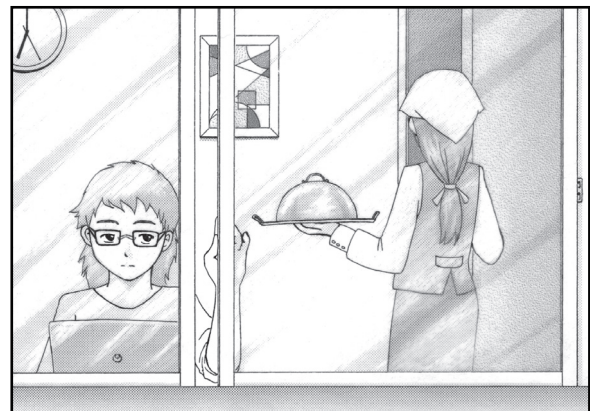


図1 「室内光景」 ©yuki.ishida

資料1 「英語コミュニケーションⅠ」における1時間目の授業計画

出席確認，洋楽の歌詞の音読練習，洋楽を聞くか，歌うかする	10分
ビジュアルテキストとワークシート1を配付し，名前を書かせる	
個人でビジュアルテキストに描かれている『もの』を4つ以上，日本語で書く ペアもしくはグループで答えを共有する	10分
（黒板のスペースの関係上）9人のうち5人の学習者が答えを板書して，残りの4人が5人の答えを音読する	8分
1. で描かれている『もの』を英語に翻訳する	17分

資料2 「英語コミュニケーションⅠ」における2時限目の授業計画

出席確認，洋楽の歌詞の音読練習，洋楽を聞くか，歌うかする	10 分
1 時限目に引き続き，ワークシート 1 の 1. で描かれている『もの』を英語に訳す	5 分
9 人のうち 5 人の学習者が答えを板書する	4 分
ワークシート 2 を配付し，名前を書かせる 「絵はどこにあるか」，その答えを日本語で書く	13 分
9 人のうち 5 人の学習者が答えを板書して，残りの 4 人が 5 人の答えを音読する	5 分
板書した内容で，自分の答えにないものがあれば，3 つぐらい赤ペンで解答欄の余白に書く	2 分
ワークシート 2 の下を書いてある There is の文法について教師が解説をして全員で英文を音読する。その後，教師は前置詞のイメージ図の前置詞について日本語の意味を板書する。学習者は，日本語の意味をイメージ図の余白に書く	5 分
ワークシート 1 と 2 を回収	1 分
※欠席した学習者には，今回出席した学習者のワークシートの答えを記載したワークシートを配付し，次時に学習の差が出ないように配慮する	

資料3 「英語コミュニケーションⅠ」における3時限目の授業計画

出席確認，洋楽の歌詞の音読練習，洋楽を聞くか，歌うかする	10 分
ワークシート 1，2 を再配付。ワークシート 2 の 4. の問題について英語に翻訳する	20 分
9 人のうち 5 人の学習者が，答えを板書する。板書している時に，教師は学習者のスペルミスなどを修正する。その後，全員で板書した英文を音読する	10 分
ワークシート 3 を配付し，5. の左側のお嬢さんはどのような行動をしようとしているか，日本語で考える。お嬢さんについては，男性でもいいし，名前を変えてもいいと指示する	4 分
すべてのワークシートを回収して終了	1 分
※欠席した学習者には，今回出席した学習者のワークシートの答えを記載したワークシートを配付し，次時に学習の差が出ないように配慮する	

資料4 「英語コミュニケーションⅠ」における4時限目の授業計画

出席確認，洋楽の歌詞の音読練習，洋楽を聞くか，歌うかする	10分
前時で回収したワークシートを再配付。前時に引き続き，ワークシート3の5.の左側のお嬢さんはどのような行動をしようとしているか，日本語で考える	15分
ワークシート3の6.の問題について英語に翻訳する	19分
すべてのワークシートを回収する	1分

資料5 「英語コミュニケーションⅠ」における5時限目の授業計画

出席確認，洋楽の歌詞の音読練習，洋楽を聞くか，歌うかする	10分
前時で回収したワークシートを再配付。学習者全員がワークシート3の解答について発表する	8分
ワークシート4を配付し，感想を書いてもらい，すべてのワークシートを回収する	13分
調査研究への参加の承諾についての説明文書及び同意書を，教師が配付し説明する。学習者が同意書に記入する	5分
通常の授業に戻る	9分

定時制課程であるため，1時限の授業時間は45分間である。学習者は，1学年で男子2名，女子7名の計9名である。本実践で用いられたワークシートは，江草（2022）と同じ次頁に示す4つである（ワークシート1～4参照）。

倫理的配慮として，本実践では，授業実践に参加する学習者に説明文書を配付して，説明し，調査研究への参加の承諾を署名で得ている。承諾しなかった者・未提出者はいなかった。説明文書では，研究の目的・意義，研究方法，研究の期間と場所，資料の開示，研究への参加の自己決定権，研究をお願いする理由，研究への参加に伴う危害の可能性，個人情報取り扱い，研究終了後の対応と研究成果の公表について，記載されている。

Ⅱ-1 「英語コミュニケーションⅠ」1時限目

1時限目では，看図アプローチの3つの活動のうち，ビジュアルテキスト中に描かれている諸要素を言語化する「変換」を行った。この活動を行うのが，ワークシート1である。ワークシート1の1.の発問（ビジュアルテキストに描かれている『もの』を4つ以上書いてください。）によって，「変換」の指示をしている。学習者たちは，図1のビジュアルテキストに描かれている「もの」について，以下のように解答していた（次頁に示す）。なお，これ以降に示す学習者が記述した日本語の解答や感想の誤字や脱字などについては筆者が訂正して記述している。一方，英語の解答については，単語のスペルミスは筆者が訂正している。また，英文はできる限り学習者の解答をそのまま再現しているので，文法的に間違いだと見受けられるものもある。

【日本語の解答】

窓 時計 パソコン メガネ 従業員 リボン ボタン 三角巾 扉 商品 かぎ 額縁 制服
 長袖 絵画 スカート おぼん シャツ 女の人 男の人 白い帽子 銀のボウル 銀の運ぶもの
 髪飾り 壁 針 頭巾 窓枠 ひも 商品 ベスト バンダナ 食べ物 四角 三角 秒針 手
 まゆげ Yシャツ 金具 水切り 目 鼻 口 耳 首 ドアノブ クローシュ 腕 半円
 トレー チョッキ (服の)シワ 窓ロック 時計の針 スーツ 飾られている絵 輪ゴム Tシャツ
 服 ガラス 人間 ドア ごはん 髪 すき間 顔 女性 男性 料理 ノートパソコン

ワークシート 1

名前_____

1. ビジュアルテキストに描かれている『もの』を4つ以上書いてください。
 (記入欄省略)
2. 1.で描かれていた『もの』を英語に直してください。
 (記入欄省略)

ワークシート 2

名前_____

3. 絵はどこにありますか？答えを 5 つ日本語で書いてください。
 (記入欄省略)
4. 3.で書いたものを英語に直してください。
 (記入欄省略)

参考情報

There is a pen on the desk. (机の上に 1 本のペンがあります。)

There are two apples on the table. (テーブルの上に 2 つのリンゴがあります。)

【前置詞のイメージ図】

in, in front of, behind, on, above, near, beside, under, between についてのイメージ図を
 呈示 (イメージ図の掲載は、著作権の関係上省略する)

ワークシート 3

名前_____

5. ビジュアルテキストの左側のお嬢さん (Maki) はどのような行動をしようとしていますか。日本語で考えて書いてください。
 (記入欄省略)
6. 5.で書いたものを英語に直してください。
 (記入欄省略)

ワークシート 4

名前_____

7. ビジュアルテキストの授業をやってみてどうでしたか。感想などを自由に書いてください。
 (記入欄省略)

今回、本実践に参加した学習者の中には、いきなり英語で「もの」を書く学習者もいたので、まずは日本語で書くように指示した。12個の解答欄を設けたが、足りなければ解答欄の余白に解答を記入してもいいと伝えた。5分程度個人思考の時間を取り、その後、ペアやグループで答えを共有する時間を取った。黒板のスペースの関係上、9人のうち5人の学習者が答えを板書して、残りの4人に、5人が板書した答えを音読してもらった。次に、ワークシート1の2.では、1.で書き出した「もの」を英語に訳してもらった。学習者たちは、スマートフォンやクロームブックなどの情報端末を活用しながら翻訳していた。作業が早い学習者には、黒板に板書している解答で自分にはないものを赤ペンで解答欄の余白に書いてもらい、英語に翻訳してもらった。

なお、本実践が行われた1時限目は、教育委員会の教科指導訪問が予定されていた。2023年度は英語科が割り当てられていた。指導主事が授業を参観することになっていたため、詳細な学習指導案を作成した（付録1参照）。1時限目では、ワークシート1のすべての内容を終了する予定で学習指導案を作成した。学習者たちは、指導主事、管理職、ホームルーム担任が参観する中、真剣かつ熱心に時間をかけて授業に取り組んでいた。そのため、ワークシート1の2.の途中で授業終了のチャイムが鳴り、筆者自身ワークシートを回収するのを忘れてしまった。しかしながら、学習指導案で計画した本時の目標（1. ビジュアルテキストに描かれている「もの」を4つ以上、日本語と英語で書くことができる。2. 簡単な英問英答ができる。洋楽の歌詞を音読することができる。洋楽を歌ったり、聞いたりすることができる。ビジュアルテキストの学習に主体的に取り組むことができる。）は、学習者全員が達成できていた。

Ⅱ-2 「英語コミュニケーションⅠ」2時限目

2時限目では、1時限目に引き続き、ワークシート1の2.で、英語に翻訳する時間を5分ぐらい取り、その後、5人の学習者に解答を板書しても

らった。学習者たちは次のように解答していた。

【英語の解答】

window clock computer glasses
employee ribbon button sling door
merchandise key picture frame uniform
long sleeve painting skirt tray shirt PC
picture woman man clothes wall
window key glass laptop human
window frame needle hood string
wall clock bandana vest food square
triangle hand cooked rice eyebrows hair
eye nose mouth ear neck doorknob
metal fittings drainer clock hands cooking
cloche gap waistcoat t-shirt hair
wrinkle second hand face semicircle
person suit white hat picture on display
rubber band door key

学習者が解答を板書した後、ワークシート2を配付した（注1参照）。このワークシートでは、看図アプローチの3つの活動のうち、ビジュアルテキストを構成している諸要素を相互に関連づける「要素関連づけ」を行った。ワークシート2の3.は、「要素関連づけ」を行うための指示である。ここでは、ビジュアルテキスト中の「絵」はどこにあるか5つ日本語で書いてもらった。この時に、5つ以上書いてもいいと指示した。学習者たちは、最初は個人思考で、その後、ペア、もしくは、グループで答えを共有してもいいと指示した。学習者たちの解答例を次に示す。

【日本語の解答】

- ・絵は時計の近くにありますが
- ・絵は男の人の後ろにあります
- ・絵は部屋の中にあります
- ・絵は真ん中にあります
- ・絵は女の子が持つクローゼットの真上にあります
- ・絵は額縁の中にあります

- ・絵は壁にかかっています
- ・絵は時計の斜め下にかかっています
- ・絵は窓から見て奥にあります
- ・絵は戸の横にあります
- ・絵は家政婦のすぐそばにあります
- ・時計のとなり
- ・ドア側のカベ
- ・少年の上
- ・中心より少し左
- ・窓の間から見える
- ・時計の右下
- ・料理より左上
- ・手の真上
- ・パソコンより上
- ・女性の左
- ・少年の後ろ
- ・扉の横にあります
- ・窓の奥側にあります
- ・クローシュの近くにあります
- ・女の人の近くにあります
- ・手の上側にあります
- ・時計の横にあります
- ・パソコンの斜め右上にあります
- ・絵は男の人の右上にある
- ・絵は天井より下にある
- ・絵は女の人の方にある
- ・絵は窓の向こう側にある
- ・絵はクローシュの左上にある
- ・絵は男の人があげている手の上側にある
- ・絵は扉の左側にある
- ・家の中
- ・ドアの隣り
- ・床の上
- ・クローシュの真上
- ・壁の上
- ・左側
- ・男性の近く
- ・男性と女性の間
- ・窓の間
- ・絵は壁の真ん中にある

- ・メガネをした人の後ろの右上に絵がある
- ・女の人の方にある
- ・開けたドアの左に絵がある

9人のうち5人の学習者が解答を板書して、板書していない4人の学習者が5人の解答を音読した。また、板書した解答で自分の解答にないものがあれば、3つぐらい赤ペンで解答欄の余白に書くように指示した。「家政婦」などの難しい言葉の意味については、学習者全員が理解しているか確認した。もしわからない学習者がいれば、知っている学習者に説明してもらった。その後、教師がワークシート2の下側に記載されている There is ~の文法について解説をして、学習者全員と英文を音読した。また、教師は on や in front of などの前置詞の意味を板書した。そして、学習者はその意味をワークシートに記載しているそれぞれの前置詞のイメージ図の余白に書いた。

II-3 「英語コミュニケーションI」3時限目

3時限目では、最初にワークシート2の4.に取り組んでもらう。3.で書き出した「絵はどこにありますか？答えを5つ日本語で書いてください。」への解答を、情報端末を活用しながら英語に翻訳してもらった。学習者たちの解答例を次に示す。

【英語の解答】

- ・ There is a picture near the clock.
- ・ There is a picture behind the man.
- ・ There is a picture beside the woman.
- ・ There is a picture in the room.
- ・ There is a picture in the middle.
- ・ There is a picture above the cloche.
- ・ There is a picture beside the door.
- ・ There is a picture in the picture frame.
- ・ The picture is hanging on the wall.
- ・ The picture is behind the man.
- ・ The picture is at the back when looking from the window.

- The picture is next to the door.
- The picture is beside the housekeeper.
- The picture is on the wall next to the door.
- The picture is above the boy.
- The picture is slightly to the left of center.
- The picture is visible between the windows.
- The picture is at the bottom right of the clock.
- The picture is on the upper left of the dish.
- There is a picture inside the frame.
- There is a photo behind the window.
- There is a picture inside the room.
- There is a picture near cloche.
- There is a picture near the woman.
- There is a picture on the hand.
- There is a picture next to the clock.
- There is a picture diagonally in the upper right corner of the computer.
- The picture is on the wall.
- The picture is above the top right of the man.
- The picture is at the bottom right of the clock.
- The picture is above the left side of the woman.
- The picture is above the other side of the window.
- The picture is above the top left of the cloche.
- The picture is above the man's raised hand.
- The picture is above the left side of the door.
- The picture is in the room.
- The picture is in the frame.
- The picture is below the ceiling.
- There is a picture in the house.
- There is a picture next to the door.
- There is a picture near the women.
- There is a picture under the ceiling.
- There is a picture above the floor.
- There is a picture hanging on the wall.
- There is a picture beside the clock.
- The picture is on the left.

- The picture is near the clock.
- The picture is near the man.
- The picture is on the computer.
- The picture is between the windows.
- The picture is in the middle of the wall.
- There is a picture in the upper right corner behind the person wearing glasses.
- There is a picture on the bottom right of the clock.
- There is a picture on the upper left of the woman.
- There is a picture to the left of the door you opened.

5人の学習者に上掲の英文を板書してもらった。ただし、ほとんどの学習者が6行ある解答欄のほとんど、また、解答欄の余白に英文を書いていた。解答欄と余白に書いた全ての解答を板書すると時間を多く使ってしまうので、書いた英文の中から3つのみ書くように指示した。その後、学習者全員と英文を音読した。

音読した後に、ワークシート3を配付した。このワークシートでは、看図アプローチの3つの活動の1つである「外挿」を行ってもらった。「外挿」とは、ビジュアルテキスト中に表現されている内容を超えて、展開について推量したり結果を予測したり、発展的に考えていく活動である。ワークシート3の5. では、「ビジュアルテキストの左側のお嬢さんは、どのような行動をしようとしているか、日本語で書いてください。」と指示した。ただし、「お嬢さん」については、男性でもいいし、名前を変えてもいい、と補足説明した。

Ⅱ-4 「英語コミュニケーションⅠ」4時限目

4時限目では、3時限目に引き続き、ワークシート3の5. の問題に取り組む時間を15分ぐらい取った。最初は個人思考で考えてもらい、その後ペアやグループで協同思考をするよう指示した。他の学習者の解答を見て、こういう表現をしてもいいんだという気づきを示す学習者もいた。また、

笑いがあつたり、柔らかい頭で考えていいのだと気づいたり、「まきさん」の行動にもう少し書き足す学習者もいた。学習者たちの解答例を次に示す。

【日本語の解答】

- ・マキさんは窓を開けようとしている。
- ・マキさんはパソコンを起動している。
- ・マキさんは休憩しようとしている。
- ・マキさんは注文しようとしている。
- ・まきは扉を開けてお客様に料理を届けようとしている女の人を見ている。
- ・まきは窓を開けて換気をしている。
- ・マキさんは両開き窓を開こうとしています。
- ・マキさんはノートパソコンを使おうとしています。
- ・マキさんは風に当たろうとしています。
- ・マキさんはノートパソコンを閉じようとしています。
- ・マキさんはこれから料理を食べるつもりです。
- ・マキさんはパソコンで作業をしようとしています。
- ・マキさんは料理を受け取ろうとしています。
- ・マキさんは休憩しようとしています。
- ・まきさんはパソコンをしています。
- ・まきさんはパソコンを使って仕事をしています。
- ・まきさんは食事を食べ終えて換気をしようとしています。
- ・まきさんは数分前まで食事をしていました。
- ・まきさんは窓を閉めようとしています。
- ・まきさんは自分で描いた絵を部屋に飾っています。
- ・まきさんはパソコンでデザインの勉強をしています。
- ・まきさんはまばたきをしています。
- ・まきさんは窓の外を眺めています。
- ・まきさんは眠そうです。
- ・まきさんはパソコンを閉じて横に避けようとしている。
- ・まきさんは料理を食べようとしている。

- ・まきさんはパソコンを充電しようとしている。
- ・まきさんは一息つこうとしている。
- ・まきさんは固まった体をほぐそうとしている。
- ・まきさんは時間を確認しようとしている。
- ・まきさんは窓の外を見ようとしている。
- ・まきさんは寒くなったので窓を閉めます。
- ・まきさんは換気をする→窓を開けた。
- ・まきさんは外の風景を見た。
- ・まきさんはパソコンの作業をしている→疲れたので中断した。
- ・料理を食べようとしている。
- ・PCで作業をしている。
- ・外を見ている。
- ・まきさんは食べ物を持ってきた。
- ・まきさんはおぼんを片づけようとしている。
- ・まきさんはボーとしてる。
- ・まきさんは窓を開けた。
- ・まきさんは隣の女性に話しかけた。
- ・まきさんは窓の外を見て外に行きたいなって考えてる。

ワークシート3の6.では、5.で書いたものを情報端末を活用しながら英語に翻訳してもらった。最初は個人思考をしてもらい、10分ぐらいたった後に協同思考をしてもいいと伝えた。協同思考をしたり、英語の翻訳を考えたりしている時に、ひらめきがあればワークシート3の5.の日本語に立ち戻って考え直す学習者もいた。学習者たちの解答例を次に示す。

【英語の解答】

- ・ Maki is trying to open the door.
- ・ Maki is starting her computer.
- ・ Maki is trying to freshen the air.
- ・ Maki is trying to take a break.
- ・ Maki is about to order.
- ・ Maki is trying to open the casement window.
- ・ Maki is trying to use the laptop.
- ・ Maki is trying to hit the wind.
- ・ Maki is trying to close the laptop.

- Maki is trying to eat some food now.
- Maki is trying to open the window.
- Maki is trying to work on her computer.
- Maki is about to receive the food.
- Maki is trying to take a break.
- Maki is using a computer.
- Maki works using a computer.
- Maki has finished eating and is trying to ventilate the room.
- Maki was eating until a few minutes ago.
- Maki is trying to close the window.
- Maki is decorating the room with pictures she drew herself.
- Maki is studying design on a computer.
- Maki is blinking.
- Maki is looking out the window.
- Maki looks sleepy.
- Maki closes her computer and tries to avoid it to the side.
- Maki is about to eat the food.
- Maki is trying to charge her computer.
- Maki is trying to take a breather.
- Maki is trying to loosen her stiff body.
- Maki is trying to check the time.
- Maki is trying to look out the window.
- Maki closed the window because it was cold.
- Maki is ventilating.
- Maki opened the window because it was hot.
- Maki looked outside.
- Maki is working on the computer.
- Maki stopped working.
- Maki is trying to eat food.
- Maki is looking outside.
- Maki brought food.
- Maki is trying to clean up the obon.
- Maki looked blank.
- Maki opened the window.
- Maki spoke to the woman next to her.
- Maki looks out the window and thinks that she wants to go outside.

Ⅱ－５ 「英語コミュニケーションⅠ」 ５時限目

５時限目では、学習者全員が一人ずつワークシート３の内容について発表した。みんな真剣に話を聞いていた。その後、ワークシート４を配付して、看図アプローチによる授業を体験しての感想などを、自由に記述してもらった。学習者たちは、次のように記述していた。

１つのイラストから様々なことが読みとれるということがわかった。読み取るのは意外と難しくて少ししか書けなかったが、楽しく学ぶことができました。そして、このようにイラストから何かを読み取ってもらえるようなイラストを描くのも、すごく大変なことなのだろうなとも思いました。私も様々な要素を取り入れたイラストを描いてみたいです。

自分が気づかなかったところや思いつかなかったところがあって他の人の話を聞いてなるほど！と思った。自分で考えてやったり、他の人と交流したりして楽しかった。新しい英単語を楽しく覚えて良いなと思った。

普段使っている日本語の単語や文を、英語に変えたらこうなったなど英語を深く知るためのきっかけになった、と思った。絵からの読み取りは、想像力や発想力を高めるのでこれもためになったと思う。楽しみながら勉強できるのは良いことだと思った。文を書く際に、英文の文法が中学生の授業で受けたことのある物だったので、思い出すことができた。絵や写真など手の付けられやすい情報から知識を増やす内容だったので、小学生などにもいいかもしれない。

こういうのは苦手だったのですが、楽しくてまたやりたいです。

ビジュアルテキストをやっているような英語がわかって楽しかったです。

自分の感じたものとはまた違った見方をしている人がいて、そういう考え方もあったのか！！と気づかされる授業でした。そして、イラストにある物を書き出して英語にすることで英文が作りやすくなるのもとてもいいなと思いました。今回の授業で覚えたことはたくさんあります。身近にある物の名前と、どこにあるかを表すための英文、そしてどのような行動をしようとしているか。ですが、最後の授業は休んでしまいました。自習するときに英文を作ってみたいです。

他の人の考え方や感じかたが自分には無いもので見ているのが楽しかった。それと、自分の書いた日本語の文を英語にするのがとてもおもしろかった。

物や行動を見つけるのは難しかったけど、友達と考えを共有することで考えが深まりとても良かったです。絵の中から色々なものを見つけて文章にすることで新しい英語を知ることができました。

仮想だからどう解釈していいかすごく難しかったです。絵から名前がわからないものがあったから調べるのが楽しかったし、知らないことを知れたのでよかったと思います。日本語を英語に直す時、伝えたいことがあわないことや、こうした書き方で伝えたいことが出てこなくて大変なところもあって、変換しやすい日本語を考えるとところが難しかったです。次やる時はもう少し発想を身につけたいなと思いました。

Ⅲ. 考察

本章では、前章で報告した授業実践と同じビジュアルテキストを用いた江草（2022）の実践を、比較しながら考察する。江草（2022）では、1 学年と 3 学年に関しては 2 時限配当で、2 学年に関しては 3 時限配当で 2022 年 3 月に実践が行われた。すべての授業が年度末の個人面談週間の時期に当たっていたため、1 時限あたりの授業時間が 5 分短縮の 40 分で行われた。本実践は 1 学年を対象とした 5 時限配当の授業であり、1 時限あたり 45 分で行われた。

ここでは、看図アプローチの基本的読解活動である「変換」「要素関連づけ」「外挿」、及び、授業実践の最後にも書いてもらった感想に分けて考察する。

Ⅲ－１ 「変換」活動について

「変換」とは、ビジュアルテキスト中に描かれている諸要素を言語化する活動である。ワークシート 1 の 1. では、ビジュアルテキストに描かれているものを 4 つ以上日本語で書く活動を行った。この活動の始まりから終わりまで江草（2022）では、3 つの学年とも 8 分程度の時間を費やした。しかしながら、本実践では、18 分程度と十分に時間を取って活動することができた。そのため、江草（2022）の 3 つの学年による実践では見られなかった「商品」「ベスト」「四角」「三角」「輪ゴム」「金具」「銀の運ぶ物」「銀のボウル」などの多様な解答が散見された。また、「クローシュ」という言葉がわからず「銀のボウル」と解答していた学習者がいた。この学習者が解答を板書した後に、「この『銀のボウル』が何を指しているかわかる人がいますか」と教師がクラス全体に聞いた。そうすると「クローシュ」と答えてくれた学習者がいて、解答欄の余白に矢印を引いて「クローシュ」と書き足し理解を深めていた。

続いてワークシート 1 の 2. では、1. で解答したものを英語に翻訳する活動を行った。この活動の始まりから終わりまで江草（2022）では、3 つの学年とも 11 分程度の時間を費やした。

しかしながら、本実践では、26分程度と十分に時間を取って活動することができた。そのため、ワークシート1の1.における活動と同様に、江草（2022）の3つの学年による実践では見られなかった merchandise, vest, square, triangle, rubber band, metal fittings, semicircle などの多様な解答が散見され、数多くの語彙について学習する機会に恵まれた。

Ⅲ－２ 「要素関連づけ」活動について

「要素関連づけ」とは、ビジュアルテキストを構成している諸要素を相互に関連づける活動である。ワークシート2の3.では「絵」はどこにあるか、日本語で5つ書く活動を行った。この活動の始まりから終わりまで江草（2022）では、1学年と3学年では7分程度、2学年では11分程度費やした。1学年と3学年では時間が限られていたこともあり、協同思考をする時間があまり取れなかった。また、学習者の解答については板書せずにその場で発表となってしまった。それに対して、2学年の実践では、時間に余裕があったので、協同思考をする時間に加えて、ペアやグループで解答を共有したり、学習者が板書して全員で解答を共有したりすることができた。一方、本実践では、20分程度と十分に時間を取って活動することができた。そのため、江草（2022）の3つの学年による実践では見られなかった多様な解答が散見された。また、前章Ⅱ－2で述べたように、板書による共有で自分の解答にないものがあれば、解答欄の余白に3つほど書き足すように指示した。これは、解答の共有だけではなく、「要素関連づけ」の後に行う「外挿」の活動につなげるためのヒントにもなるかもしれないと考えたからである。

続いてワークシート2の4.では、3.で解答したものを英語に翻訳する活動を行った。この活動の始まりから終わりまで、江草（2022）では、1学年では2分程度、2学年では15分程度、3学年では10分程度費やした。1学年においては、1時限目の最後に翻訳する活動となり、残り時間

が2分程度しか残っていなかった。そのため、学習者が解答を発表する余裕がなかった。このことから、2時限目は「外挿」の活動に焦点を当てた方がいいと考えた。

江草（2022）でこの活動に時間があまり取れなかった他の理由についてもまとめておく。2021年度は年度末の限られたスケジュールの中で実践を行った。そのため、教師側の余裕のない時間配分での指導であったことや、初めて行う授業スタイルに慣れていなかったことが大きかったと考えられる。2学年においては、十分な活動時間があったため、学習者が余裕をもって解答を板書することができていた。3学年においても10分程度の活動時間があったので、3人の学習者が解答をその場で発表することができた。一方、本実践では、30分程度と十分に時間を取って活動することができた。そのため、20分程度を個人思考や協同思考をする時間に当て、残りの10分程度で5人の学習者に解答を板書してもらった。そして、学習者全員で解答を音読する時間にも当てることができた。また、江草（2022）の解答例と比較しても、本実践では、多様な解答が散見されただけではなく、解答欄を埋めつくすほどたくさん書いている学習者が多かった。

この翻訳の活動を行うワークシート2の下側には、位置関係を示す前置詞のイメージ図が記載されていた。江草（2022）では、翻訳を行うときにはこのイメージ図を参考にすればよいと口頭で解説して、前置詞を音読しただけであった。一方、本実践では、解説や音読をするだけではなく、前置詞の日本語の意味を板書し、学習者はその意味をイメージ図の余白に書き写して理解を深めていた。また、「～の上に」という表現には on と above があるが、情報端末を活用しながらその意味の詳細な違いについて調べ、書き足している学習者もいた。

Ⅲ－３ 「外挿」活動について

「外挿」とは、ビジュアルテキスト中に表現されている内容を超えて、展開について推量したり

結果を予測したりすることにより、発展的に考えていく活動である。ワークシート3の5.では、「左側のお嬢さんはどのような行動をしようとしているか」について日本語で書く活動を行った。この活動の始まりから終わりまで江草（2022）では、1 学年では 13 分程度、2 学年では 17 分程度、3 学年では 8 分程度費やした。1 学年と 3 学年においては、個人思考あるいは協同思考をした後に 3 分程度ペアやグループで解答を共有した。2 学年においては、2 時限目の最後にこの活動が行われ、学習者は真剣にかつ丁寧に翻訳をしていたため、解答を発表したり共有したりする時間を設定することができなかった。しかしながら、十分な活動時間が確保できていたので、多くの学習者がたくさんの解答を記述していた。

一方、本実践では、19 分程度と十分に時間を取って活動することができた。そのため、多くの学習者がたくさんの解答を記述していた。また、前章Ⅱ－4 で述べたように、他の学習者の解答から気づきがあったり、柔らかい頭で考えてもいいのだと気づいたり、一度考えた解答に書き足す学習者もいた。江草（2022）とは違い、本実践においては英語の翻訳活動へとすぐに進んだ方が学習者の集中力の維持にもいいと考え、解答の発表を行わなかった。

続いてワークシート3の6.では、5. で書いたものを英語へ翻訳する活動を行った。この活動の始まりから終わりまで江草（2022）では、1 学年では 15 分程度、2 学年では 27 分程度、3 学年では 12 分程度費やした。1 学年においては、10 分程度翻訳する活動を行い、残りの 5 分程度で学習者全員が板書して、その後、板書した英文を全員で音読した。2 学年においては、十分な活動時間があつたので、20 分程度を翻訳する活動を行い、多くの学習者がたくさんの解答を書いていた。そのため、学習者全員に解答を板書してもらったが、時間の都合上、作成した解答のうち 2 文のみ板書してもらい、その後、板書した英文を全員で音読した。3 学年においては、10 分程度翻訳する活動を行った。その後は、時間の関係上、

3 人の学習者に書いた英文をその場で発表してもらった。一方、本実践においては、27 分程度と十分に時間を取って活動することができた。そのため、19 分程度を英語に翻訳する活動にあてた。多くの学習者がたくさんの解答を記述していた。また、前章Ⅱ－4 で述べたように、協同思考をする中でひらめきがあればワークシート3の5.における日本語の記述に立ち戻って考え直す学習者もいた。そして、最後の 8 分程度で、ワークシート3の解答について一人ずつ発表してもらった。

Ⅲ－4 感想について

授業実践の最後に書いてもらった感想について考察する。江草（2022）では、「[前略] 自分で絵の内容を想像して自由な英文を作るのが楽しかったし、やりがいもありました (p. 45)」, 「自分で答えを見つけるのが楽しかった (p. 41)」, 「人によってとらえ方が変わって、自分が思いつかなかったことも知れて面白かったです (p. 49)」など、肯定的な感想が多かった。一方、本実践においても「1 つのイラストから様々なことが読みとれるということがわかった。読み取るのは意外と難しくて少ししか書けなかったが、楽しく学ぶことができたと思います。[後略]」, 「物や行動を見つけるのは難しかったけど、友達と考えを共有することで考えが深まりとても良かったです。[後略]」, 「[前略] 新しい英単語を楽しく覚えて良いなと思った。」など、江草（2022）と同様に肯定的な感想が多かった。これらの感想は、他の看図アプローチの実践研究（茅野・時田, 2021; 溝上・吾妻・鹿内, 2016; 大村・池浦, 2020）と同様に、看図アプローチの有効性や汎用性の高さを示すものである。

Ⅳ. よりよい看図アプローチ実践のための考察

Ⅳ－1 ビジュアルテキストと発問の相乗効果

以上、本実践と江草（2022）のワークシートの記述内容から、看図アプローチの 3 つの活動(変換・要素関連づけ・外挿)と感想に分けて考察した。ここでは、看図アプローチ理論に着目してさらに

考察していく。看図アプローチでは、次の2つの理論が重要である。それは、ある種の「わかりにくさ」が備わっているビジュアルテキスト（鹿内、2015）を用いることと、「変換」「要素関連づけ」「外挿」を引き出す適切な「発問」を用いること（鹿内・石田、2025）である。これらが協同の学び合いを促進させたり、多様な解答を産出させたりする。

そして、この2つの理論を支持する理由については前章の考察から説明することができる。例えば、江草（2022）では、1学年・2学年・3学年と3つの学年が、一方、本実践では1学年の学習者がそれぞれ看図アプローチ授業を受けた。また、それぞれの実践では、授業を行う時間数や、「変換」「要素関連づけ」「外挿」における活動時間が異なっていた。さらには、それぞれの学年の人数や、集団の雰囲気や特性などが異なっていた。様々な条件の違いがあるにもかかわらず、学習者は、活動時間に左右されず、個人で思考したり、ペアやグループあるいは教師と協同思考したりすることで多様な解答を産み出していく。このような授業は、ある種の「わかりにくさ」が備わっているビジュアルテキストと、「変換」「要素関連づけ」「外挿」を引き出す適切な「発問」があることによって実現する。つまり、「ビジュアルテキスト」と「発問」がしっかりと融合されることで、充実した学習活動を引き出すことができる。そしてそれは、看図アプローチが持つ魅力であり、「やりがいがある」、「楽しかった」などの肯定的な感想につながっていく。このアプローチが持つ魅力を最大限に発揮するためには、看図アプローチの理論を理解することはもちろん、教師自身の創意工夫する力が重要になってくることは言うまでもない。

IV-2 教師の創意工夫と臨機応変さ

江草（2022）では、年度末の限られたスケジュールで、かつ、5分短縮授業の中での実践であった。そのような状況の中でも創意工夫し臨機応変に対応する力が鍵となる。筆者が行う普通の授業では、英語学習への意欲を高めるために、10分程度、

簡単な英会話、洋楽の歌詞の音読、そして、洋楽を歌うか、もしくは、聞くかの活動を冒頭に行っている。しかし、2時限目の看図アプローチによる活動時間を確保するために、簡単な英会話・洋楽の歌詞の音読を省略した。また、1時限目に欠席した学習者には、すぐに学習についてこれるように、他の学習者が書いた解答をワークシートに解答例としてまとめ、それを配付して、参考にしてもらった。さらに、1時限目の最後に活動の解答を発表する時間がないときは、教師の方でワークシートや電子黒板で学習者の解答をまとめ、2時限目の最初に、配付もしくは提示した。そうすることによって、解答を板書する時間を節約でき、次の活動に余裕を持って取り組み、限られた時間の中でもより深い学びにつながっていった。

IV-3 英語教育と看図アプローチ

英語教育の視点から「変換」「要素関連づけ」「外挿」活動における有用性について考察する。日本の中学校や高等学校における英語教科書は、様々な文法項目をベースにしてそれぞれのレッスンが構成されている（e.g., 佐藤・笠原、2022; 鈴木、2024）。そのため、江草（2024）や高杉（2024）が指摘するように、教科書を用いて授業を進めようと観点別評価における「知識・技能」を伸ばす指導に偏ってしまう傾向がある。しかし、看図アプローチを活用することで、「知識・技能」だけではなく「思考・判断・表現」も含めてバランス良く伸ばすことができる。例えば、ワークシート2において「要素関連づけ」の活動をする時に、江草（2022）及び本実践ともに、学習者は、There is ～や前置詞を用いてたくさんの英文を書いていた。これについては、様々な目的や場面、状況などに応じて適切に表現する「思考・判断・表現」を伸ばすことが期待できる。また、ワークシート3において「外挿」の活動をする時にも、江草（2022）及び本実践ともに、学習者は多様な解答をたくさん書いていた。そのため、この活動からも「思考・判断・表現」を伸ばすことが期待できる。なお、筆者の勤務校で採用している教

科書の各レッスンの章末には、ほとんどの場合そのレッスンでの目標となる文法項目を用いて英作文を書くことが推奨される活動が盛り込まれている。その内容と江草（2022）及び本実践での活動は類似している。看図アプローチを活用すれば同等か、否、それ以上の学習効果を得られる可能性がある。看図アプローチの「外挿」の活動では、様々な目的や場面、状況などに応じて、ビジュアルテキスト中に表現されている内容を超えて、発展的に考えて表現することができる。このため、1つの文法項目だけでなく、多様な文法項目を駆使して英作文を作成し、他者に発表することが可能となる。多様な英語表現を学ぶきっかけにもなり、より深い学びへとつなげることができる。看図アプローチを活用することで英語教育の可能性は大きく広がっていく。

V. 今後の課題

本実践に参加した学習者は、「糸通し」というビジュアルテキストを用いた授業実践（江草，2023）や、看図アプローチ協同学習を促進するビジュアルテキストである「きゅうちゃん」を用いた授業実践（江草，2024）を含め、2025年6月現在までに4回看図アプローチ授業を受けている。これらの実践についても、収集したワークシートの記述内容を分析して、看図アプローチの有効性や汎用性の高さを再確認する必要がある。また、これまで使用したことのないビジュアルテキストによる授業も実施・報告していきたい。

引用・参考文献

茅野徑子・時田優奈（2021）.「いつでも、どこでも、だれでも、だれとでもできる看図作文指導—「きゅうちゃん、たぶんこうだったんじゃないか劇場」—」『全国看図アプローチ研究会研究誌』6, 3-15.
https://kanzu-approach.com/journal/kanzu-journal.vol.6_pp.3-15.pdf
 江草千春（2022）.「看図アプローチを活用した定時制高校における英作文の授業実践」『全国看

図アプローチ研究会研究誌』13, 35-51.

https://kanzu-approach.com/journal/kanzu-journal.vol.13_pp.35-51.pdf

江草千春（2023）.「看図アプローチを活用した定時制高校4年生における英作文の授業実践—2022年3月の実践との比較—」『全国看図アプローチ研究会研究誌』18, 35-47.

https://kanzu-approach.com/journal/kanzu-journal.vol.18_pp.35-47.pdf

江草千春（2024）.「看図アプローチを活用した定時制高校『英語表現Ⅰ』の授業実践—協同学習促進ツール『きゅうちゃん』の有効性—」『全国看図アプローチ研究会研究誌』22, 3-18.

https://kanzu-approach.com/journal/kanzu-journal.vol.22_pp.3-18.pdf

Finke, R. A., Ward, T. B., & Smith, S. M. (1996). *Creative cognition: Theory, research, and applications*. MIT press. (フィンケ R. A. ウォード T. B. スミス S. M., 小橋康章 (訳) (1999).『創造的認知—実験で探るクリエイティブな発想のメカニズム』森北出版.)

石田ゆき（2022）.「きゅうちゃんの歴史（Ⅰ）—誕生編—」『全国看図アプローチ研究会研究誌』16, 29-37.

https://kanzu-approach.com/journal/kanzu-journal.vol.16_pp.29-37.pdf

石田ゆき（2023）.「きゅうちゃんの歴史（Ⅱ）—とっても大事な『ちょこっと使い』編—」『全国看図アプローチ研究会研究誌』17, 31-44.

https://kanzu-approach.com/journal/kanzu-journal.vol.17_pp.31-44.pdf

石田ゆき（2025）.『看図アプローチのための教材デザイン—「見ること」でととのう学びの雰囲気—』トリアーデ.

溝上広樹・吾妻行雄・鹿内信善（2016）.「高校生物における看図アプローチを利用した授業実践—ウニからその生態と東日本大震災を考える—」『福岡女学院大学大学院紀要・発達教育学』1, 21-25.

<https://fukujo.repo.nii.ac.jp/records/2000461>

- 大村勅夫・池浦恵里 (2020). 「看図アプローチ協同学習を用いた古典読解単元の考察その1『きゅうちゃん』を用いて『伊勢物語』第9段を内容把握する」『全国看図アプローチ研究会研究誌』4, 14-23.
https://kanzu-approach.com/journal/kanzu-journal.vol.4_pp.14-23.pdf
- 酒井英樹 (2021). 「第6章 リサーチデザインを問う—スタートラインで考えるべきこと」 亘理陽一・草薙邦広・寺沢拓敬・浦野研・工藤洋路・酒井英樹（著）. 『英語教育のエビデンス—これからの英語教育研究のために』（pp. 97-104）研究社.
- 鯨島輝美・石田ゆき (2023). 「演習型授業における学生の主観的学びの記述についての言説分析—自己紹介に看図アプローチを活用した事例から—」『協同と教育』18, 53-73.
https://doi.org/10.69320/kyodokyouiku.18.0_53
- 佐藤臨太郎・笠原究（編）(2022). 『効果的英語授業の設計—理解・練習・繰り返しを重視して—』開拓社.
- 鹿内信善 (2015). 『改訂増補 協同学習ツールのつくり方いかし方—看図アプローチで育てる学びの力—』ナカニシヤ出版.
- 鹿内信善 (2016). 「看図アプローチによる授業づくり」 杉江修治（編）. 『協同学習がつくるアクティブ・ラーニング』（pp.99-106）明治図書出版.
- 鹿内信善 (2022). 「看図アプローチで読み解く協同教育・協同学習」『協同と教育』17, 7-19.
https://jasce.jp/docs/jasce_017.pdf
- 鹿内信善 (2023). 「看図アプローチの可能性を拓く—特集号を編集して—」『協同と教育』18, 31-34.
https://doi.org/10.69320/kyodokyouiku.18.0_31
- 鹿内信善 (2024). 「編集後記」『全国看図アプローチ研究会研究誌』22, 49.
<https://kanzu-approach.com/journal/kanzu-journal.vol.22-henshukoki.pdf>
- 鹿内信善・石田ゆき（編）(2025). 『見方・考え方を育てる授業デザイン—看図アプローチの理論と実践—』トリアーデ.
- 鹿内信善・佐田明菜・中尾慎矢・石山信幸 (2016). 「看図アプローチをキーワードにした校内授業づくり研修の試み—南筑高校の事例—」『福岡女学院大学大学院紀要・発達教育学』1, 57-63.
<https://fukujo.repo.nii.ac.jp/records/2000466>
- 鈴木祐一 (2024). 『あたらしい第2言語習得論—英語指導の思い込みを変える—』研究社.
- 高杉達也 (2024). 『思考力・判断力・表現力を育てる中学校・高等学校「タスク×言語活動」英語授業デザイン』明治図書出版.
- 田中岬 (2022). 「1年生がスムーズに説明文が書けることを目指して—みぶりが伝える内容を文章化するための看図アプローチ—」『全国看図アプローチ研究会研究誌』14, 3-21.
https://kanzu-approach.com/journal/kanzu-journal.vol.14_pp.3-21.pdf
- 浦野研 (2021). 「第3章 英語教育におけるメタ分析の重要性」 亘理陽一・草薙邦広・寺沢拓敬・浦野研・工藤洋路・酒井英樹（著）. 『英語教育のエビデンス—これからの英語教育研究のために』（pp. 45-58）研究社.
- 山下雅佳実 (2023). 「『看図アプローチ』を活用した園内研修プログラムの開発」『協同と教育』18, 35-52.
https://doi.org/10.69320/kyodokyouiku.18.0_35

謝 辞

本稿をまとめるにあたり、鹿内信善先生に、貴重なご指導・ご助言を頂きました。また、石田ゆき先生には、ビジュアルテキストの使用の許可を頂きました。深く感謝申し上げます。

付録1 「英語コミュニケーションⅠ」における1時限目の学習指導案

学習指導案

A高等学校

教科：英語 科目名：英語コミュニケーションⅠ 授業者： 筆者					
日 時		令和5年10月 1校時		1年教室	
実施学年		第1学年（男子2人 女子7人 計9人）			
使用教科書		Amity English CommunicationⅠ（開隆堂）		副教材	なし
単元名		ビジュアルテキスト「室内光景」について看図アプローチ（変換・要素関連づけ・外挿）を活用して英作文を作ってみよう			
指導目標		ビジュアルテキスト「室内光景」について、「変換」、「要素関連づけ」、「外挿」の3つの活動を用いて英作文を書いて伝えることができる。 1. 【知識・技能】ビジュアルテキストに描かれている「もの」についての語彙や表現等を理解している。 2. 【思考・判断・表現】ビジュアルテキストに描かれている「絵」がどこにあるかについて基本的な語句や表現を用いて書いている。 読み手に伝わるように、ビジュアルテキストに描かれている登場人物がどのような行動をしようとしているかについて、基本的な語句や表現を用いて書いている。 3. 【主体的に学習に取り組む態度】ビジュアルテキストに描かれている「絵」がどこにあるかについて基本的な語句や表現を用いて書こうとしている。 読み手に伝わるように、ビジュアルテキストに描かれている登場人物がどのような行動をしようとしているかについて、基本的な語句や表現を用いて書こうとしている。			
指導計画				配当時間	本時は第1時間目／3時間
本時の目標		1. ビジュアルテキストに描かれている「もの」を4つ以上、日本語と英語で書くことができる。【知識・技能】 2. 簡単な英問英答ができる。洋楽の歌詞を音読することができる。洋楽を歌ったり、聞いたりすることができる。ビジュアルテキストの学習に主体的に取り組むことができる。【主体的に学習に取り組む態度】			
段階	学習の流れ	学習活動		指導上の留意点	時間
		教師の指導	学習者の学習活動		
導入	- 挨拶，出欠確認 - 簡単な英問英答 10月の洋楽 Yellow Submarine/ Stand by Me	月日，曜日，天気，時刻，好きな色やスポーツなどの質問をする	- 挨拶，返事をする - 質問に答える	しっかりほめて学習者の動機付けを高める	10分

展開	・ビジュアルテキスト「室内光景」とワークシート1を配付し、「変換」の活動を行う	・ビジュアルテキストとワークシート1を配付し、名前を書かせる ・個人でビジュアルテキストに描かれている「もの」を4つ以上、日本語で書くように指示する ・グループで答えを共有するように指示する ・学習者に答えを板書させ、全員で共有するように指示する ・1で描かれている「もの」を英語に訳すように指示する ・グループで答えを共有し、数人の学習者が答えを板書するように指示する	・ワークシート1に名前を書く ・「もの」を4つ以上書く。例：時計・扉・窓・パソコン・絵・壁・めがね・ドア、など ・となりなどの学習者で「もの」を共有する ・答えを板書する ・「もの」をクロームブック等の情報端末を活用して英語に訳す ・となりなどの学習者で答えを共有し、板書する	・机間巡視をしながら、丸付けをし、ほめて、動機付けを高める ・個人思考が好きな学習者もいるので、配慮が必要 ・自分が気付かなかった答えは赤ペンで加筆するようにする ・机間巡視をしながら、丸付けをし、ほめて、動機付けを高める	30分
----	---	--	---	--	-----

整理		・板書した英単語を一度、発音練習する ・ワークシート 1 を回収する ・次時の予告など	・発音練習する ・ワークシート 1 を教師に渡す ・挨拶		5 分
評価の観点	1. ビジュアルテキストに描かれている「もの」を 4 つ以上、日本語と英語で書くことができたか。【知識・技能】 2. 簡単な英問英答ができたか。洋楽の歌詞を音読することができたか。洋楽を歌ったり、聞いたりすることができたか。ビジュアルテキストの学習に主体的に取り組むことができたか。【主体的に学習に取り組む態度】				
備考 (指導主事に看図アプローチの 3 つの活動を理解してもらうために記載した)	看図アプローチは、ビジュアルテキストの読解を授業の中に取り入れている特徴がある(鹿内, 2016)。ビジュアルテキストとは、図・写真・動画・グラフなどのことである。従来、ビジュアルテキストは「見るもの」と考えられていた。しかしながら、看図アプローチでは、ビジュアルテキストを「読むもの」として位置づけた。また、ビジュアルテキストを読み解いていくための処理として、次の 3 つの活動がある(鹿内, 2015)。1 つ目が、「変換」であり、ビジュアルテキスト中に描かれている(あるいは写っている)諸要素を言語化する活動である。2 つ目が、「要素関連づけ」であり、ビジュアルテキストを構成している諸要素を相互に関連づける活動である。3 つ目が、「外挿」であり、ビジュアルテキスト中に表現されている内容を超えて、展開について推量したり結果を予測したりすることにより、発展的に考えていく活動である。				

注 1

学習者が英語の解答を板書した後に、解答の発音練習をする予定であったが、失念してしまった。

2025 年 6 月 22 日 受付

2025 年 7 月 13 日 査読終了受理